

篠原信雄教授の退職に寄せて

安部 崇重

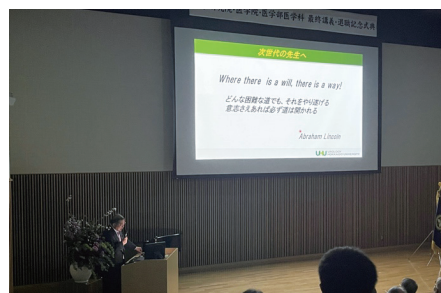
平成26年10月に教授に就任され、約10年にわたり教室を主宰された篠原信雄先生が令和6年3月31日退職されました。長きにわたり、私たちを指導して下さった先生にあらためましてお礼を申し上げます。常にポジティブで、周りを和やかにさせる先生のお人柄に皆助けられておりました。「心理的安全性」、「ノンテクニカルスキル」、多分先生のそれは生来のもので、やろうと思って出来るものではありませんね。先生の人懐きに飛び込むスピードは、おそらく幕之内一步を凌駕しています。先生と大石先生のコンビで作成された数々のポスター、YouTubeにはとてもアップできない動画など私の知る限り先生は無双の泌尿器科教授であられました。患者に寄り添う医療も天下一品です。私のようなひねくれ者を長くおいてくださって本当に感謝しております。先生のご指導で、私の天邪鬼が多少なりとも矯正されているとよいのですが。



今年度は、東部総会も大盛會に終えられたこともお祝い申し上げます。アカデミックチャレンジと銘打って高校生に学会参加の機会を提供した企画も大変有意義でありました。その他、カダバートレーニング等の新しい企画も大変好評でありました。



2024/3/15にはフラテホールで最終講義・退職記念式典が開催されました。「泌尿器がんに対する治療の進歩と課題・有転移腎癌の薬物療法を中心に」というタイトルで、先生が情熱をもって取り組まれた腎癌の基礎研究・臨床研究についてお話いただきました。「どんな困難な道でも、それをやり遂げる意志さえあれば必ず道は開かれる(エイブラハム・リンカーン)」、後進への熱いメッセージで講義を終えられました。



2024/3/23には京王プラザホテルにて、退職記念講演会・退職記念祝賀会が開催されました。非常に温かい会であったと思います。私も記念講演会で腫瘍グループの10年について、講演させていただく機会を頂戴しましたが、自分でつくったスライドに実は泣きそうになりました。



先生が私たちに残して下さった知識・技術・問題解決方法・組織作り・リーダーシップ・人間として大切なこと。全てに感謝しております。有難うございました。新天地での先生の益々のご活躍を祈念申し上げます。

北海道大学大学院医学研究院
腎泌尿器外科学教室

篠原信雄教授退職記念講演会・祝賀会

令和6年3月23日 京王プラザホテル札幌

講演会次第

『篠原教授と歩んだこの10年、そして次世代への期待』

【司会】 自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児泌尿器科
教授 守屋 仁彦 先生

開会の辞

『篠原教授と小児・神経グループの軌跡』

北海道大学病院泌尿器科
助教 千葉 博基

『篠原教授と歩んだ腎移植血管外科の10年 －伝統の継承と新たな挑戦－』

北海道大学病院泌尿器科
講師 堀田 記世彦

『篠原教授に学んだ泌尿器腫瘍グループの10年』

北海道大学大学院医学研究院 腎泌尿器外科学教室
准教授 安部 崇重

閉会の辞

祝賀会次第

【司会】北海道大学大学院医学研究院 准教授 安部 崇重

開 会 の 辞

祝 辞 北海道大学 総長 寶金 清博 様

北海道大学大学院医学研究院 研究院長 畠山 鎮次 様

日本泌尿器科学会 理事長
九州大学大学院医学研究院 教授 江藤 正俊 様

謝 辞 ご 挨拶 北海道大学大学院医学研究院 教授 篠原 信雄

花 束 贈 呈

祝 杯 北海道大学 名誉教授 小柳 知彦 様

開 宴

祝 賀 の お 言 葉 北海道大学 名誉教授 野々村克也 様

北海道大学大学院医学研究院 副研究院長 田中 伸哉 様

北海道大学大学院医学研究院 副研究院長 本間 明宏 様

札幌医科大学 教授 舂森 直哉 様

日本医科大学付属病院 教授 木村 剛 様

北海道大学病院 看護部長・副院長 岡林 靖子 様

篠原信雄教授の軌跡 北海道大学病院泌尿器科 講師 堀田記世彦

お 礼 の 言 葉

乾 杯 北大泌尿器科同門会 会長 信野祐一郎 様

閉 会 の 辞

篠原信雄教授退職記念報告

大澤 崇宏

令和6年3月15日(金)に、北海道大学医学部学友会館フラテホールにおいて、篠原信雄教授退職記念の最終講義が行われました。「泌尿器がんに対する治療の進歩と課題～有転移腎がんの薬物治療を中心に～」というテーマで、インターフェロンから分子標的薬、そして免疫チェックポイント阻害薬へと変遷した有転移腎がん薬物治療について、篠原教授が行われた臨床研究の成果も含めて最終講義されました。講義に引き続いて、同じく退職される久住一郎先生とともに退職記念式典が行われました。(写真1:フラテホール、写真2:記念式典のあと教授室にて)

令和6年3月16日(土)には、京王プラザ札幌において、篠原信雄教授退職記念講演会と祝賀会が行われました(写真3)。講演会の司会は、守屋仁彦先生が担当されました。千葉博基先生が、「篠原教授と小児・神経グループの軌跡」、堀田記世彦先生が、「篠原教授と歩んだ腎移植血管外科の10年—伝統の継承と新たな挑戦—」、安部崇重先生が、「篠原教授に学んだ泌尿器腫瘍グループの10年」について、それぞれのグループからの視点で篠原教授在任期間中の臨床・教育・研究についてのまとめが発表されました。その後、安部崇重先生の司会のもと祝賀会が執り行われました(写真4, 5, 6, 7, 8)。祝辞は、北海道大学総長の寶金清博先生、北海道大学大学院医学研究院研究院長の畠山鎮次先生、および日本泌尿器科学会理事長・九州大学大学院医学研究院教授の江藤正俊先生よりいただきました。篠原教授の代表的な業績として、北海道大学医学部創

立100周年記念事業や、札幌で腎癌研究会会長として行われた腎癌研究会、臨床研究のエピソードなどがお話しされました。北海道大学名誉教授の小柳知彦先生より祝杯のご挨拶をいただき、篠原教授の教授選のお祝いにご自身が医局に駆けつけた際のエピソードも共有されました。さらに、北海道大学名誉教授の野々村克也先生、北海道大学大学院医学研究院副研究院長の田中伸哉先生、北海道大学大学院医学研究院副研究院長の本間明宏先生、札幌医科大学教授の舛森直哉先生、日本医科大学付属病院教授の木村剛先生、北海道大学病院看護部長・副院長の岡林靖子師長より祝賀のお言葉をいただきました。いずれの祝辞にも篠原教授在任中の心温まるエピソードが語られ、篠原教授の誰からも親しまれるお人柄がうかがわれました。会の後半では、堀田記世彦先生から、篠原信雄教授の軌跡についてスライド紹介がありました。中でも、International Journal of Urology誌のEditor in chiefを務められた際に過去最高のインパクトファクターを達成したこと、腎癌取り扱い規約改訂委員長を務められたことなどお話がありました。会の締めくくりは、北大泌尿器科同門会会長の信野祐一郎先生の乾杯で終了しました。参加者の記念品は、「しのびー」というビールと、「困難は天からの励まし」という刻印の入ったビールタンブラーでした。いずれのデザインも当教室年報の表紙や、医局説明会および、東部総会のポスターデザインを手がけてくれている大石悠一郎先生によるものでした。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

御退任に寄せて

小柳 知彦

まさに光陰矢の如し (Tempus fugit) です。教授会にて就任決定との知らせを聞きお祝いに駆けつける際、車のスピードを出しすぎて交通違反のチケットを貰う羽目に陥ったのが僅か10年前とは信じられないくらいです。でもこの間に先生が成し遂げられた業績には素晴らしいものが数多くあります。

その一つが教室の研究テーマとしてこれまでの Functional Urology、Pediatric Urology、腎移植血管外科、再建外科、Hypospadiology、築に加えて腎癌研究を柱として泌尿器腫瘍学 (Urologic Oncology) を追加確立された事です。お人柄が成せるのか国内外の共同研究者にもめぐまれていたのではないのでしょうか。そうした先生の人脈を活用されて若い研究員の研究発展の為に積極的に学内外への研究留学を進められていました。

今一つ特記すべき点は在任期間中入局者が年平均7~8名と従来を上回っただけでなくその内に占める女性泌尿器科医の割合が多くなった事だと思います。CT、MRI、PET、Echo-US、Robotic Surgery等、一早くハイテクが診断治療面で導入さ

れた泌尿器科が同じ外科領域での体力依存重視から知力依存へと変化しつつある事もその理由の一つですが女性医師が働きやすい環境と整備し周囲の理解を深められたトップの考え方が多いに関係している筈です。

何れにしろこの10年間に教室の層を厚くされた事は紛れもなく在任期間中に他大学 (山梨大、自治医大) へ教授として就任された先生が3人も居られる事がこれを裏付けています。

この四月からは道東の基幹病院の一つである釧路労災病院院長に赴任されるとの事、誠におめでとうございます。国の厚生労働省が管轄する労働者健康福祉機構が抱える労災病院グループの一つで、機構本部より直々の依頼にてこの就任です。管理職としての職務はこれ迄とは異なるものがある筈ですがこれ迄の実績に鑑み何ら問題は無い筈です。

Academic Urologistとしてのこれまでの労をねぎらうと同時に今後道東釧路での御活躍を祈念してはなむけのことばとします。

篠原泌尿器科学教室 10年の活躍

おめでとうございます

野々村 克也

過日、篠原教授の退職記念講演会・祝賀会に出席させていただきました。そこには私が大学を離れて見えていなかった北大泌尿器科篠原教室10年の業績がプレゼンテーションされました。昨今の細径かつ高性能の内視鏡やロボットを駆使した外科的治療の長足の進歩にあって教室が先頭に立って活躍されていることにびっくりしました。また、近年のモレキュラーレベルの研究は癌や拒絶反応の診断をより容易にし、治療面では分子標的薬をはじめとする新規抗がん剤や免疫抑制剤の登場をもたらし、さらには異種移植を可能にする勢いです。その最先端の分野で多くの教室員が第一線で活躍していることも驚きを持って受け止めました。

私が担当した10年を振り返るとき、「教室員のモチベーションを十分発揮させていなかったのかな？」という思いにも駆られました。翻って、ここ10年の泌尿器科の進歩は北大泌尿器科教室の輝ける活躍と共にあったことは篠原教授の指導力によるもの感服致しております。

バイタリティー溢れる素晴らしい指導者を失うのは教室にとって痛手でしょうが、その精神を受け継ぎ、更なる教室の活躍・発展を期待しております。篠原教授、長い間の激務、ご苦労様でした。これからはギアを一段落として元気に活躍されますことを願っております。

篠原先生、北大泌尿器科教室員の未来に乾杯！！

無事退職おめでとうございます

守屋 仁彦

篠原先生、退職おめでとうございます。

北大時代はお世話になりました。私は1991年の先生が留学から戻られた時期に入局しており、2004年に北大のスタッフとなったのち2019年3月の退職まで一緒に勤務させていただきました。ハワイでのSIUに二人で参加したなど大学勤務時代の思い出も多くあり、楽しい時間を過ごさせていただきました。市立札幌病院勤務時には現勤務地である自治医大への異動を考えているときに相談に乗っていただき、背中を押していただいたことをあらためて感謝いたします。現勤務地において北大時代に学んだ臨床手技とともに目の当たりした教室運営への姿勢が現在の礎になっています。

現在は育ちの違う人たちと仕事をすることが多いですが、北大での時間がきわめて濃密であったことを再認識するとともに、いかに人に教えるか、いろんな面で難しさを感じています。先生が北大の教授として後進を指導し教室の発展させてきたことに敬意を表します。

仕事好きの先生はいろいろ気苦労の多いお仕事から解放されての釧路勤務はややもの足りないのかもしれませんが、優雅な時間となることを祈念しております。これからもお元気で活躍ください。

篠原信雄教授の退職に寄せて

三井 貴彦

早いもので、この原稿を書いている時期の山梨では、遠くの間々にはまだ雪があるものの、すでに桜のつぼみもほころびて、春の訪れを感じる毎日が続いています。

篠原信雄先生、ご退職おめでとうございます。お疲れさまでした。以前は、「退職なのに、何がめでたいのだろう」などと考えていましたが、山梨大学で一つの講座を牽引していく立場になり、無事にその任期を終えることができることは、やはり「おめでとうございます」という言葉がふさわしいのだと心から感じています。

まずは私事ですが、北海道大学から山梨大学に快く送り出していただいたことに、お礼を申し上げます。篠原先生ご自身が教授に就任されて半年ほどであったにも関わらず、快く送り出していただいたことにより、山梨大学での仕事もスムーズに進めることができました。そのおかげもあり、山梨大学の泌尿器科学講座を任せていただけるようになった大きな一つの要因であったと感じています。教授選考の際にも、公開発表ではいただいたスライドを参考にさせていただきましたし、お守りも送っていただいたことは、とても心強く感じました。教授

選考の際に自分の経験したことを、私も後身に伝えていきたいと考えています。

さて、篠原信雄先生との思い出を紐解きますと、なんとといっても私が入局した初めての夏に篠原先生と一緒に出張した名寄市立病院での出来事になります。名寄市立病院に行く際には、一緒に篠原先生の自家用車に乗せていただいたのですが、そのトランクにはゴルフバックが入っており、楽しい出張になるものと考えていました。しかし、この名寄市立病院への出張は、結果的に怒涛の1週間となりました。緊急の臨時手術が何件かあったこともあり、ゴルフどころか、まともに食事も睡眠もとれなかったと記憶しています。ただ、この1週間でいろいろな症例を経験し、ご指導いただいたことは今でも役立っています。この名寄市立病院での出来事は、良い思い出です。

北海道大学を退職された後は、釧路労災病院の病院長としてご活躍されると伺っています。まだまだ、お忙しい毎日が続くことにはなりますが、お身体をくれぐれもご自愛ください。ぜひとも、篠原先生のご在任中に釧路に伺いたいと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

篠原信雄先生、お疲れ様でした、 そしてありがとうございました

岩見 大基

篠原教授、10年間どうもお疲れさまでした。篠原教授の在任10年間のうち約6年間、腎移植班スタッフとしてご貴重な経験を積ませていただきました。加えて、血液浄化部副部長として院内の増え続ける血液浄化療法のニーズに答えるべく奮闘したのもよい経験でした。そんな中、2018年に発生した北海道胆振東部地震で全道が停電に陥った日は衝撃でした。病院に駆けつけなくてはと思い、家族を家に置き、夜明けの札幌市内を信号機が全く消えた交差点の左右から突っ込んでくるかも知れない車に怯えつつ北大病院に向かったのを思い出します。その後はどうなることかと途方にくれましたが篠原教授からは適宜的確なアドバイスを頂きました。そしてわずか2日で近隣の透析は復旧し、透析難民が北大病院になだれ込むこともなく、各インフラの頑丈さに感動したのを覚えています。

ほかにもいろいろ思い出されるところはありますが、私がここで言うべき最大の感謝は教授職の道筋を示してくださったことです。篠原教授の最後のご指導をいただき、ご縁あって現職に就くことができました。まさか赴任と同時にコロナ禍という大きな試練がやってくるとは想像もできませんでしたが。移動・面会・学会参加が制限され、人材集めもままならぬ厳しい時期が続きました。幸い1人、また1人と若くてやる気あふれる若者が集まり始めてくれ、そして

篠原教授のお計らいで広瀬貴行・佐々木元先生が来てくれて大きな刺激を与えてくれました。篠原教授、本当にありがとうございました。私は先生からいただき現在も教授室に貼り付けてある山本五十六の名言を大事に臨床医・研究者・教育者としての道を私なりに歩んでまいります。新しい地でもお体に気をつけてご活躍ください。

最後にこの場を借りて少しだけ同門会のみなさまに対して近況報告させてください。この春で就任4周年となり腎移植も累計120件が達成できました。3年間でドナー手術をもとにラパロ認定医を3人出しまして(合格率100%)、来春は4人目の合格を見れそうです。そして現在は私含めて5人の医局員ですが、部下4人全員が「実験したいです!」という不思議な雰囲気になっています(実際2人が大学院生)。臨床もしっかりやってくれるのでよいのですが4人全員が臨床・実験の二足のわらじを履く状態になるとは想像していなかったのでテーマの割り振り、働き方改革を気にしつつ実験時間の確保の配慮をするなど、大変な毎日が続いてゆきそうです。なんとかやる気のある彼ら全員を希望通りにさせたいと思います。どこかで成長した彼らを見るのがあったら、それは岩見の努力が少しずつ実を結んでいるのだな、と思ってください。今後ともどうぞよろしく願いいたします。